

北国街道沿いの引き札

野々市市本町通りは、かつて北国街道の宿場町として栄え、多くの商店が軒を連ねていました。

野々市は、在郷町ざいごうまちという、農村部にありながら商業機能を持つ地域でした。そのため、金沢などの城下町とは異なり、特定の老舗や大規模な商店は少なく、様々な品を扱う小規模な店が数多く存在していたのが特徴です。周辺の農家が主な顧客であったことが、多種多様な引き札から見て取れます。

また、太陽暦（新暦）と支那暦（旧暦）の2つの暦が併記された引き札も見つかりました。明治6年（1873年）に新暦への改暦が行われましたが、農作業のサイクルは旧暦に基づいていたため、野々市でも多くの農家が引き続き旧暦を好んでいたようです。